



畜産・酪農に関する 基本的な事項



2024年4月

農林水産省
MAFF



目次

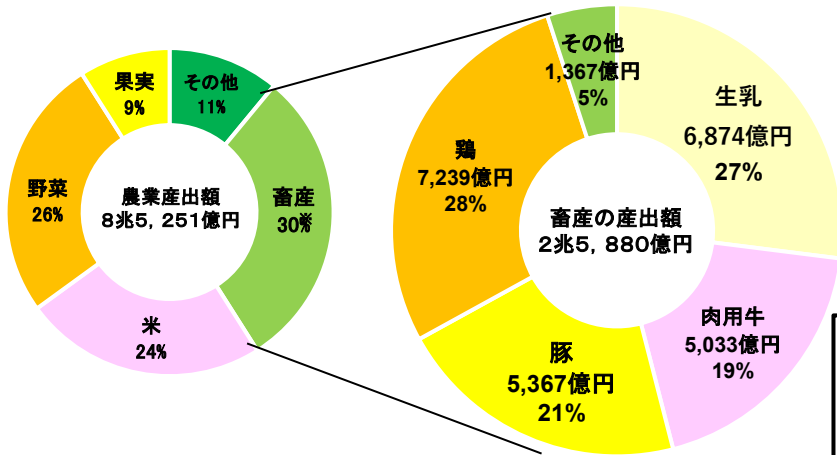
我が国の農業における畜産の地位・・・	1	牛乳乳製品の製造工程	・・・	12	
畜産の都道府県別産出額	・・・	2	牛乳乳製品の流通	・・・	13
家畜・家きんの種類					
乳用牛	・・・	3	牛肉・豚肉の流通	・・・	14
肉用牛	・・・	4	牛肉の格付けの仕組み	・・・	15
豚	・・・	5	肉用牛の生産構造(平成30年度)	・・・	16
鶏	・・・	6	鶏肉・鶏卵の流通	・・・	17
飼養戸数・頭数・羽数の推移					
乳用牛	・・・	7	牛乳乳製品の輸出	・・・	19
肉用牛	・・・	8	国産牛肉の輸出	・・・	20
豚	・・・	9	家畜飼料の種類	・・・	21
鶏(採卵鶏)	・・・	10			
鶏(ブロイラー)	・・・	11			



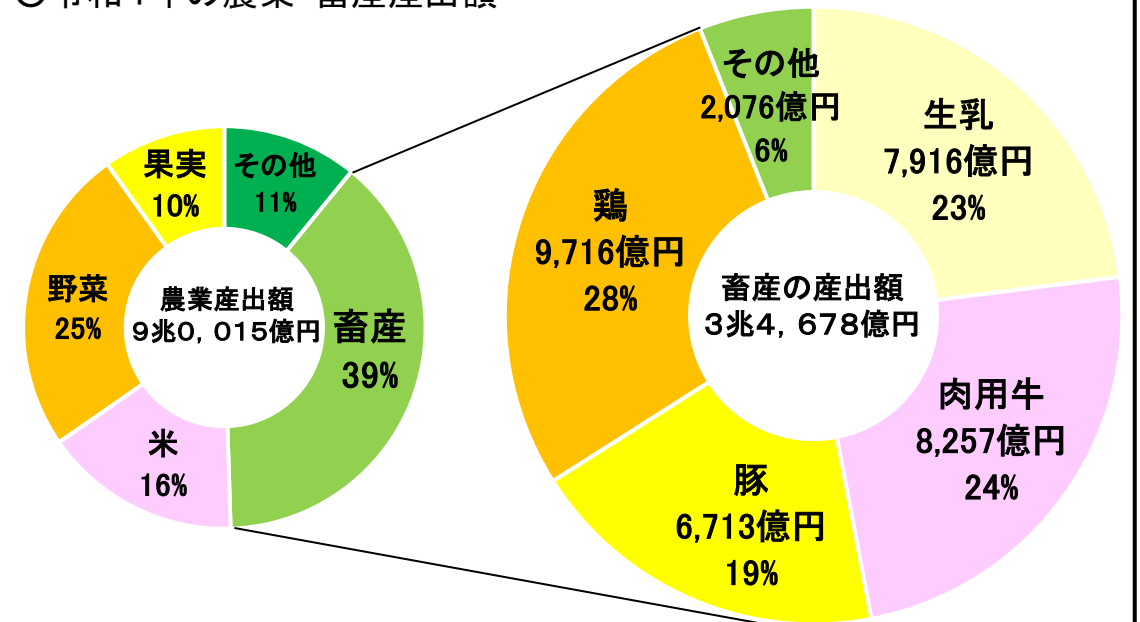
我が国の農業における畜産の地位

- 令和4年の農業産出額は9兆0,015億円。うち畜産は3兆4,678億円となっており、産出額の約39%を占める。
(生乳:23%、肉用牛:24%、豚:19%、鶏:28%)
- 10年前(平成24年)と比べ、額で8,798億円、農業生産額に占めるシェアで8ポイント増加。

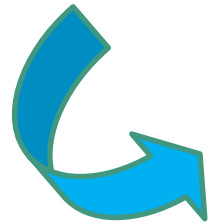
○平成24年の農業・畜産産出額



○令和4年の農業・畜産産出額



◎平成24年から令和4年の10年間で
農業産出額は106%、
畜産の産出額は134%に増加



資料:農林水産省「令和4年農業総産出額(全国)」

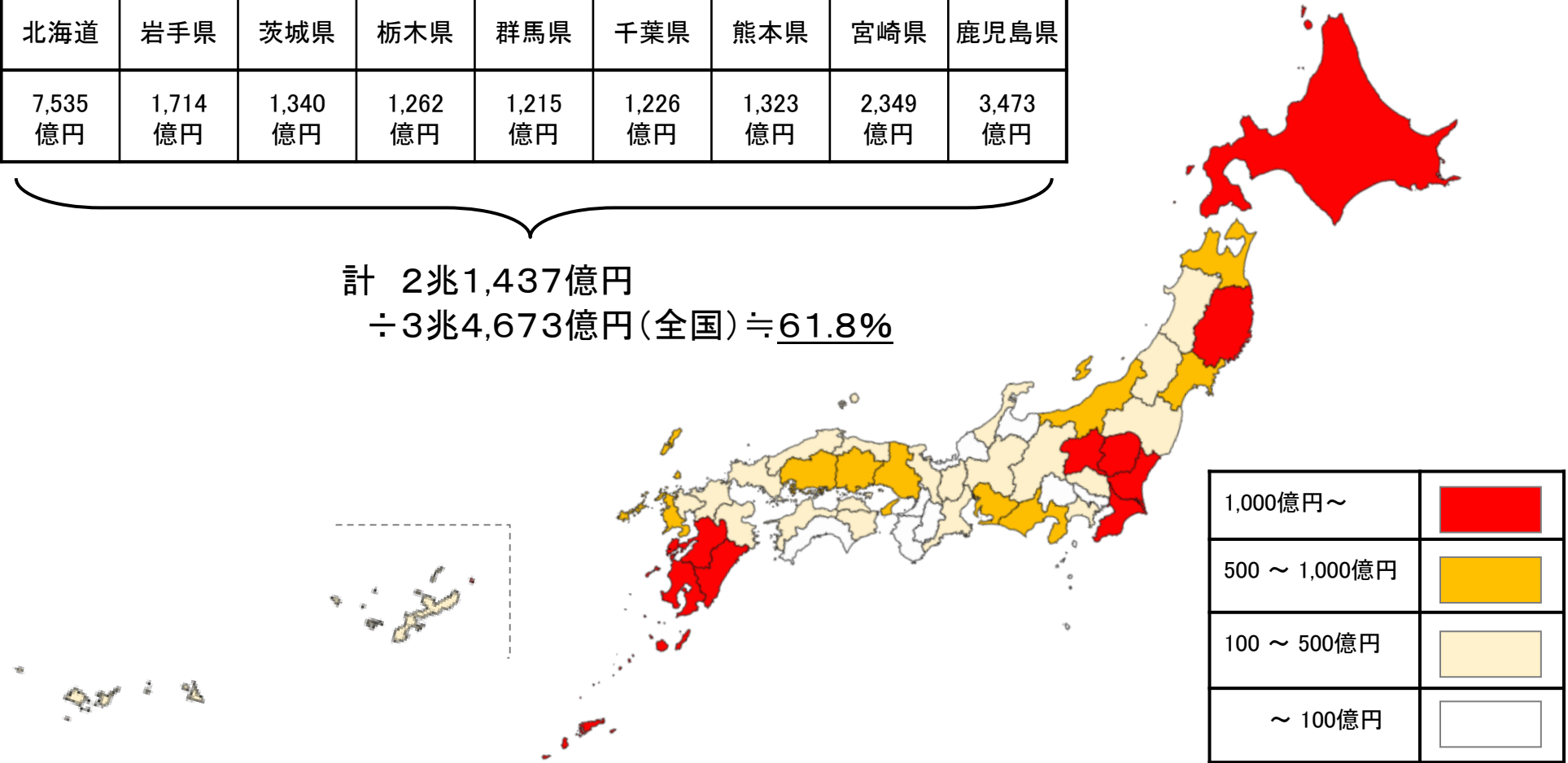
※四捨五入の関係で、グラフと説明の記載は一致しない場合がある。

畜産の都道府県別産出額

- 産出額を都道府県別に見ると、1,000億円以上が9道県(北海道、岩手県、茨城県、栃木県、群馬県、千葉県、熊本県、宮崎県、鹿児島県)となっており、この9道県で全国の約62%を占める。

北海道	岩手県	茨城県	栃木県	群馬県	千葉県	熊本県	宮崎県	鹿児島県
7,535 億円	1,714 億円	1,340 億円	1,262 億円	1,215 億円	1,226 億円	1,323 億円	2,349 億円	3,473 億円

計 2兆1,437億円
 ÷ 3兆4,673億円(全国) ≒ 61.8%



資料: 農林水産省「令和4年農業産出額(都道府県別)」

注: 都道府県別の数値は中間生産物(子豚等)が重複計上されているため、前ページの数値とは一致しない。

家畜・家きんの種類:乳用牛

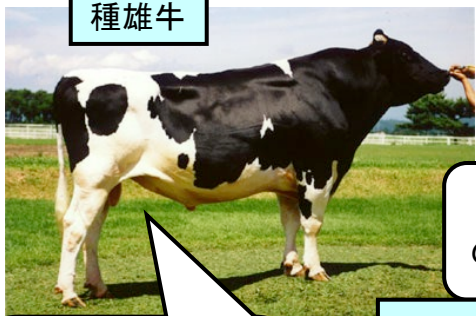
子牛を産んだ乳用牛の雌牛から、「生乳(せいにゅう)」を搾乳(さくにゅう)し、飲用牛乳やバター、チーズ、ヨーグルトなどの乳製品を生産。

- ・ 乳用牛が1年間に生産する生乳は、平均で約8,900kg(S40年は現在の半分の約4,300kg)。平均搾乳期間は360日程度。なお、令和4年度の我が国の生乳生産量は753万トン。

注:生産物である生乳は、リットルなどではなくキログラムやトンで数えます。

ホルスタイン種

種雄牛



我が国で飼養されている乳用牛の約99%がホルスタイン種。

乳用牛(雌牛)



「種雄牛(しゅゆうぎゆう)」は、雌に交配するための精液を生産するための雄牛。

家畜人工授精(かちくじんこうじゅせい)により、沢山の雌牛と交配できるため、精液販売の専門業者など、限られたところでしか飼養されていない。

写真提供:(一社)全国肉用牛振興基金協会

ジャージー種



写真提供:(公社)中央畜産会

我が国ではホルスタイン種の次に頭数が多いが、その数は約1万頭。ホルスタイン種に比べ、乳量は少ないが、乳脂率が高いという特徴がある。

主に岡山県の蒜山(ひるぜん)高原、熊本県の小国(おぐに)などで飼養されている。

家畜・家きんの種類:肉用牛

- ・ 肉用牛には3種の区分があり、それぞれ「肉専用種」「乳用種」「交雑種(F1)」と呼ばれている。
- ・ 「肉専用種」は牛肉を生産する目的で改良された牛。「乳用種」は酪農経営の副産物である雄牛で、牛肉生産向けに肥育(ひいく)されている牛。「交雑種」は乳用種の雌牛と肉専用種の雄牛を交配して生産される牛で、乳用種よりも脂肪交雑(サシ)が入りやすい。

肉専用種

和牛 (4品種)



黒毛和種

- 在来牛にブラウンスイス種等を交配して改良が進められた品種。
- 被毛色は黒褐単色。和牛全体の約97%を占め、肉質は特に脂肪交雑(いわゆる「サシ」)の面で優れる。



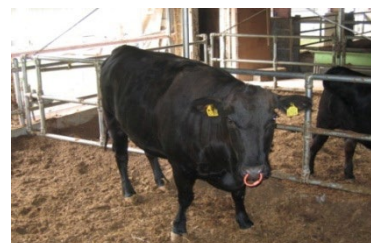
褐毛和種

- 熊本県と高知県で飼われていた朝鮮牛を基礎とした在来牛にシンメンタル種等を交配して改良が進められた品種。
- 被毛色は黄褐色から赤褐色。耐暑性に優れ、粗飼料利用性も高い。主産県は熊本県及び高知県。



日本短角種

- 東北地方北部で飼われていた南部牛にショートホーン種を交配して改良が進められた品種。
- 被毛色は濃褐色。耐寒性に優れ、粗飼料利用性も高い。主産県は岩手県。



無角和種

- 在来牛にアバディーンアンガス種を交配して改良が進められた品種。
- 被毛色は黒色で黒毛和種より黒味が強い。粗飼料利用性が高い。主産県は山口県。

この他、外国種(アンガス、ヘレフォードなど)も

乳用種

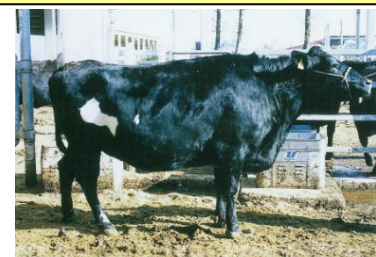


ホルスタイン種 (♂)

- 酪農経営の副産物である雄牛を肥育。肉質の点で輸入牛肉と競合。

※「乳用種」、「交雑種」の子牛は酪農経営で生産される。

交雑種(F1)



黒毛和種(♂) × ホルスタイン種(♀)

- 乳用種の雌牛に、肉質向上を目的として、肉専用種である黒毛和種の雄牛を交配し生産。

写真提供：(一社)全国肉用牛振興基金協会
乳用種は(公社)中央畜産会

家畜・家さんの種類：豚

- ・ 養豚は主として、異なる品種を掛け合わせることによってそれぞれの両親や祖父母が持つ特徴を活かして、肉質、発育性、多産性などを向上させ、経済効率を高めながら、豚肉生産が行われている(三元交配(さんげんこうはい)など)。
- ・ また、純粋種としても生産され、我が国では「黒豚(バークシャー種)」が有名。

大ヨークシャー種

デンマーク原産。
背脂肪が薄く赤肉率も高く、
発育も極めて早いのが特徴。



米国原産。
顔は長めで、顔面は
わずかにしゃくれ、色
は褐色。雄系品種と
して飼養頭数も多い。

バークシャー種



ランドレース種

英国原産。
赤肉率が高く、加工
品の原料として高い
評価を得ている。



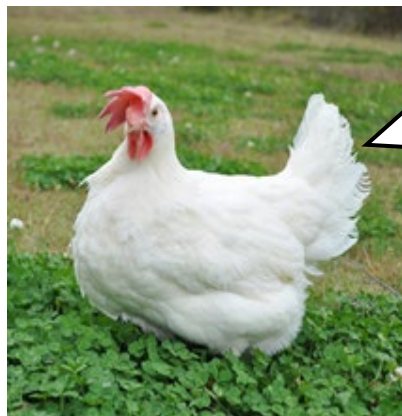
デュロック種

英国原産。
発育性(増体)は劣るが、
肉質(きめ細かさ・柔らか
さ)が良いのが特徴で、
「黒豚」と呼ばれている。
鹿児島が主産県。

家畜・家きんの種類: 鶏

- ・ 鶏には、主として、卵を生産する「卵用種」と、ブロイラーなど肉用として飼養される「肉用種」がある。
 - ・ 在来鶏に、その特徴を生かしつつ卵の生産性の高い品種などを交配することにより、「地鶏」の生産が行われている。
- ※ 「卵肉兼用種」もある。

卵用種



白色レグホン
代表的な卵用種。
産卵数は供用初年度で250~290個と多産。

肉用種



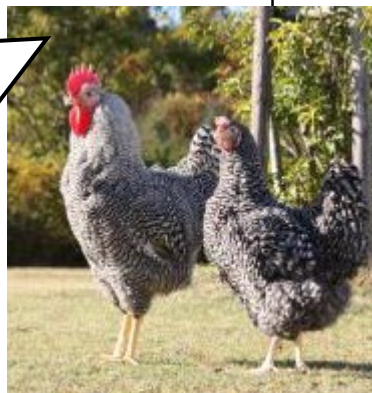
白色プリマスロック
この雌と「白色コーニッシュ」という品種の雄を掛け合わせたものが、ブロイラーの主流。

卵肉兼用種

横斑プリマスロック

代表的な卵肉兼用種。産卵数は卵用鶏と遜色なく多産。食肉としても美味。

(独)家畜改良センターが開発した「岡崎おうはん」がある。



比内地鶏

写真は比内鶏(在来鶏)。この雄と「ロードアイランドレッド」という品種の雌を掛け合わせて「比内地鶏」という銘柄で食用に供されている。

